

# 2019年3月期 第3四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2019年2月5日

株式会社 **クレスコ**

The background of the slide is a repeating blue geometric pattern on a white background. The pattern consists of interlocking, zig-zagging lines that form a complex, maze-like structure. This pattern covers the top and bottom portions of the slide, while the middle portion is a plain white rectangle containing the text.

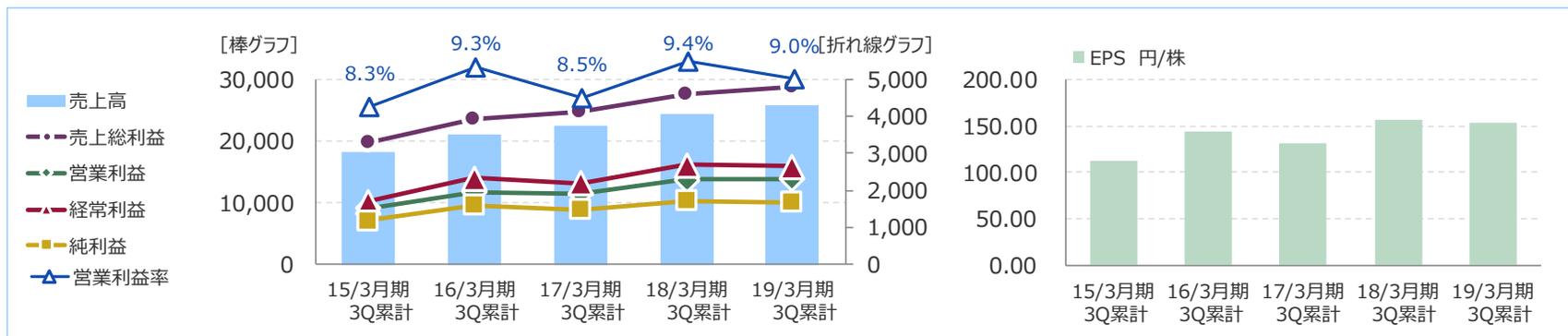
# ① 決算のポイント

[単位：百万円未満切捨]

- 第3四半期の経営環境は、引続き良好。  
海外経済情勢に起因する景気の不透明感や為替・株式相場の動向、自然災害など、懸念事項は多々あるものの、経営環境は、回復基調が継続。
- 売上高 … 顧客ポートフォリオおよび子会社を含む事業体制見直しの結果、増収。  
利益 … 営業利益は、プラスに転じるも、経常利益、当期純利益ともに減益。
  - 金融案件の剥落影響や上期に発生した不採算プロジェクトの対応、一部子会社の業績低迷が、業績の重しに。また、開発人員不足(社員、ビジネスパートナー)の影響は依然、大きい。
  - 経常利益の主な減益要因は、有価証券評価損の増加と有価証券売却益の減少。

3 Q 累 計		17/03期	18/03期	19/03期	前年 同期比	対通期 進捗率
		売上高	22,474	24,459	<b>25,828</b>	<b>105.6%</b>
	売上総利益	4,139 (18.4%)	4,605 (18.8%)	<b>4,809 (18.6%)</b>	<b>104.4%</b>	
	営業利益	1,919 (8.5%)	2,297 (9.4%)	<b>2,316 (9.0%)</b>	<b>100.8%</b>	<b>70.6%</b>
	経常利益	2,190 (9.7%)	2,683 (11.0%)	<b>2,654 (10.3%)</b>	<b>98.9%</b>	<b>74.1%</b>
	純利益	1,486 (6.6%)	1,720 (7.0%)	<b>1,673 (6.5%)</b>	<b>97.3%</b>	<b>69.3%</b>
	EPS 円/株	131.25	155.8	<b>152.98</b>		

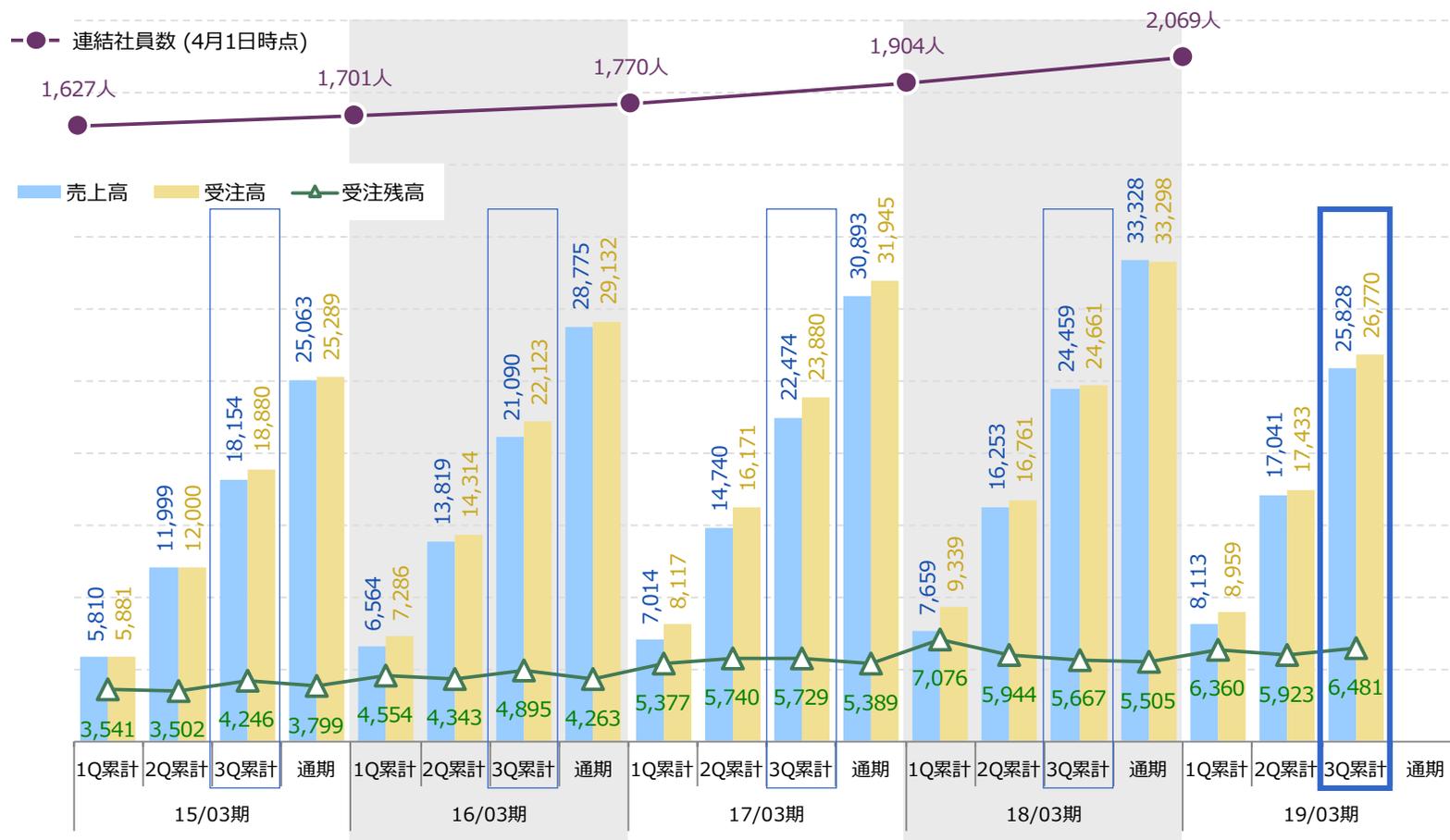
通期 業績予想	
19/03期 18/5/8 予想	前年 同期比
35,500	106.5%
3,280 (9.2%)	106.1%
3,580 (10.1%)	102.5%
2,416 (6.8%)	109.7%
220.84	



[注] ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。  
[注] 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

- 顧客の引合いは、デジタル変革を背景に概ね順調に推移するも、開発要員の不足が受注の重しに。
  - ・ソフトウェア開発 … 「金融」は底打ち感、各セクターとも徐々に勢いを取り戻しつつある状況。新子会社も寄与。
  - ・組込み型ソフトウェア開発 … 「カーエレクトロニクス」「情報家電・その他」の引合いは、顧客別の濃淡はあるものの、堅調。
- 受注高 : 前年3Q累計比 108.6%  
 受注残高 : 前年比 114.4%

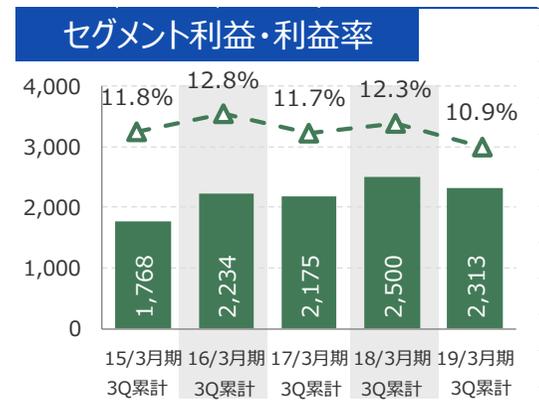
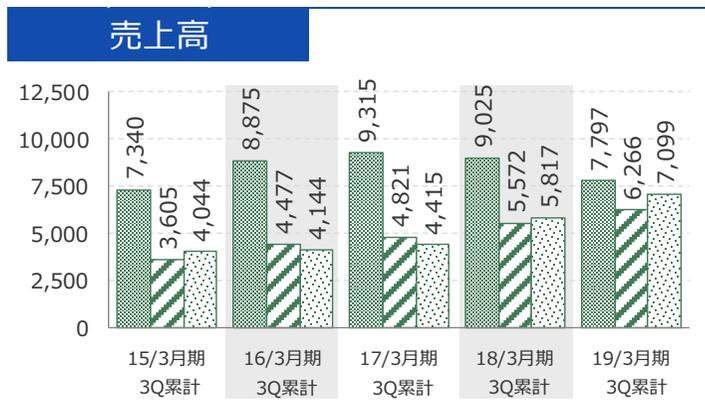
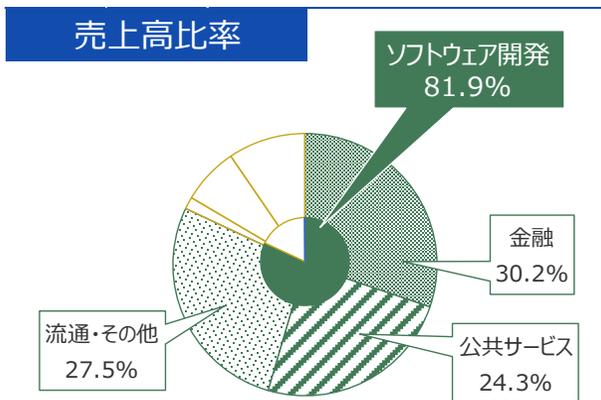


[単位：百万円未満切捨]

## ■ ソフトウェア開発

- 不採算案件(赤字)の収束対応、再発防止策に注力。事業ポートフォリオの見直し、リソースのシフトを実施。その他、子会社「アルス」の連結効果(10月～)もプラス材料に。
- 金融 … メガバンクの大型案件剥落が大きく影響し、前年対比ではマイナスに。
- 公共サービス … 旅行業および人材サービス向けの案件増加により、前年対比で増加。
- 流通・その他 … 子会社「アイオス」の受注増、「ネクサス」の連結効果により、前年対比で増加。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
3 Q 累 計	ソ フ ト ウ エ ア	売上高				
		金融	9,315	9,025	<b>7,797</b>	<b>86.4%</b>
		公共サービス	4,821	5,572	<b>6,266</b>	<b>112.5%</b>
	流通・その他	4,415	5,817	<b>7,099</b>	<b>122.0%</b>	
	セグメント利益(率)	18,552	20,415	<b>21,163</b>	<b>103.7%</b>	
	セグメント利益(率)	2,175 (11.7%)	2,500 (12.3%)	<b>2,313 (10.9%)</b>	<b>92.5%</b>	

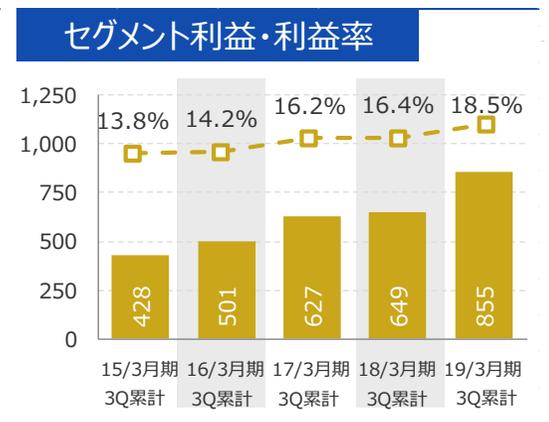
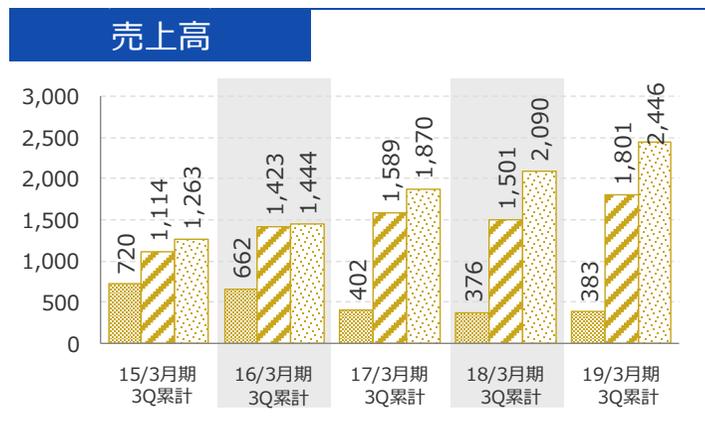
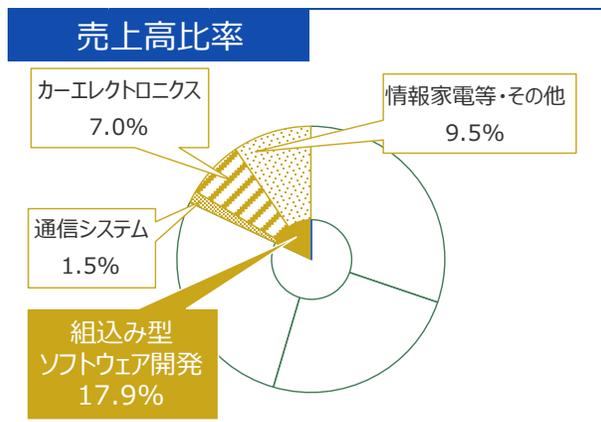


[単位：百万円未満切捨]

## ■ 組込み型ソフトウェア開発

- 受注単価の見直しや生産性改善の取組み、開発体制の強化が奏功。
- 通信システム … スマートフォン関連のプロジェクトが増。現体制を維持。
- カーエレクトロニクス … 主力のインフォテイメント系、表示系が堅調。
- 情報家電等・その他 … テレビ、カメラ、AIスピーカー等のデジタル情報家電のほか、子会社「シーフリー」の制御系開発(鉄道、電気関連)が堅調。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
3 Q 累 計	組 込 み 型 売 上 高	通信システム	402	376	<b>383</b>	<b>101.8%</b>
		カーエレクトロニクス	1,589	1,501	<b>1,801</b>	<b>120.0%</b>
		情報家電等・その他	1,870	2,090	<b>2,446</b>	<b>117.0%</b>
			3,861	3,968	<b>4,631</b>	<b>116.7%</b>
	セグメント利益(率)	627 (16.2%)	649 (16.4%)	<b>855 (18.5%)</b>	<b>131.7%</b>	



The background of the slide is a repeating blue geometric pattern on a white background. The pattern consists of interlocking lines forming a complex, maze-like structure that resembles a stylized 'G' or a similar geometric motif.

## ② 今期の見通し

[単位：百万円未満切捨]

- 業種・業態で濃淡があるものの、顧客のIT投資意欲は、旺盛。
- 案件の小型化、開発人員の不足が、懸念事項ではあるものの、第4四半期は、主力の人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電を中心に、着実な積上げに注力。
- 第3四半期までの対業績予想の消化率および受注状況を鑑み、2018年5月8日に発表した、業績予想に**変更なし**。

通期	18/03期				19/03期	
	17/5/9 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	18/5/8 予想	前年 同期比
	売上高	33,200	107.5%	33,328	107.9%	<b>35,500</b>
売上総利益			6,308 (18.9%)	109.8%		
営業利益	3,000 (9.0%)	110.8%	3,091 (9.3%)	114.2%	<b>3,280 (9.2%)</b>	<b>106.1%</b>
経常利益	3,280 (9.9%)	106.6%	3,492 (10.5%)	113.4%	<b>3,580 (10.1%)</b>	<b>102.5%</b>
純利益	2,230 (6.7%)	109.2%	2,202 (6.6%)	107.8%	<b>2,416 (6.8%)</b>	<b>109.7%</b>
EPS 円/株	207.63		200.25		<b>220.84</b>	

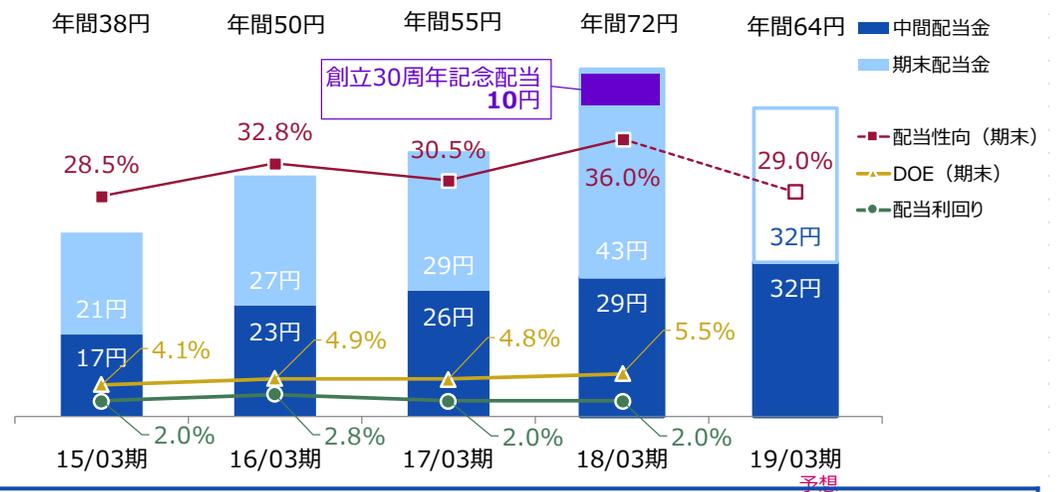
【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。  
 【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

[配当金総額：百万円未満切捨]

## ■ 2018年5月8日に発表した、配当予想 64円（中間32円、期末32円）から**変更なし**

	17/03期	18/03期	19/03期		
	実績	実績	実績	18/5/8 予想	増減
中間	26円	29円	32円	<b>32円</b>	<b>3円</b>
期末	29円	※ 43円	-	<b>32円</b>	<b>-11円</b>
年間	55円	72円	32円	<b>64円</b>	<b>-8円</b>
配当性向	30.5%	36.0%	-	<b>29.0%</b>	<b>-7.0%</b>
配当利回り	2.0%	2.0%	-	-	-
DOE	4.8%	5.5%	-	-	-
配当金の総額	623百万円	781百万円	-	-	-

※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む



株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- ▶ 特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、**当社(単体)**の経常利益を基に、特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



【ご参考】

A decorative border at the top and bottom of the page, consisting of a repeating blue geometric pattern on a white background. The pattern is a complex, interlocking design of lines forming a series of small, irregular shapes that create a maze-like appearance.

## ■情報サービス産業

- 企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」や「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みは、生産性改善に寄与するソフトウェア開発、システム開発の更なる需要を喚起。

## ■クレスコ Group

- コア技術(アプリケーション開発技術、ITインフラ構築技術、組込み技術)に、先端技術(AI、IoT、ロボティクス等)を加えたクレスコグループの幅広い事業領域が優位性を発揮。
- 市場の変化に即した顧客ポートフォリオ及び事業体制の見直しを図る。
- 新規顧客の開拓、先端技術を取り込んだ新規事業・サービスの開発に注力。
- グループ連携の強化や品質管理の再徹底を通じて、リソースに応じた適正な受注量の確保と顧客満足度の更なる向上に努めた。
- エバンジェリスト活動の一環として、技術研究の成果発表や各種サービス・ソリューションのプロモーション活動を引続き、推進。
- 良好な経営環境が継続している反面、エンジニア不足は、受託開発事業において、業績拡大のボトルネック
- 全社的な生産性改善活動（自社向けのイノベーション活動）はもとより、開発リソースの確保、受注単価の引上げ、選別受注を積極的に実施し、業績の巻き返しに取り組む。

## ■情報サービス産業の動向

- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、システム開発の需要が確実に見込まれる。
- 日本情報システム・ユーザー協会が実施の「企業IT動向調査2018」では、40.7%の企業が2018年度の予算を昨年度に引続き「増やす」と回答。
- 当社の足許の営業状況からもお客様の投資意欲を窺うことができ、需要の更なる押上げが実感できる。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、クラウドを活用したシステムを中心に市場は拡大し、IoT(Internet of Things)、AI(人工知能)/機械学習、運用自動化(Robotic Process Automation)といった先端技術のトレンドと相まって、投資意欲は一層拡大する。

- 需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性向上、開発体制の強化は、優先課題。
- 人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込む。
- 基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する生産性向上を目的とするシステム（AI、RPA）、ハードウェア、運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込む。
- クレスコグループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有しており、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業において、技術および品質の面から更なる強化を図る。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実させていく。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開していく。

- 「CRESCO Ambition 2020」、に沿った経営
- ビジネス品質と生産性の向上による確実な成長
- M&Aによるグループビジネス規模の拡大

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

## CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation  
～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

1. 鉄板品質の提供
2. 生産性の追求
3. リソース戦略の強化
4. 人材の採用と育成
5. 新技術の研究・開発
6. グループ連携の強化
7. 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
8. 新規ビジネスの組成
9. コーポレートガバナンスの推進
10. 健康管理と働き方改革の推進
11. ダイバーシティへの取組み

	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション <span style="color: red;">【※4】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコワイヤレス <span style="color: red;">【※1】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ・アイディー <span style="color: red;">【※1】</span>	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
アイオス <span style="color: red;">【※7】【※11】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
科礼斯軟件（上海） <span style="color: red;">【※6】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/
シーズリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
エス・アイ・サービス <span style="color: red;">【※2】【※4】</span>	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス <span style="color: red;">【※3】【※9】【※10】</span>	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
エヌシステム <span style="color: red;">【※5】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ネクサス <span style="color: red;">【※8】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	
アルス <span style="color: red;">【※12】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	
<b>子会社総数</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	

【※1】 2015年4月1日付で「ワイヤレステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

【※2】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※3】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※4】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

【※5】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化

【※6】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了

【※7】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化 (当社の孫会社)

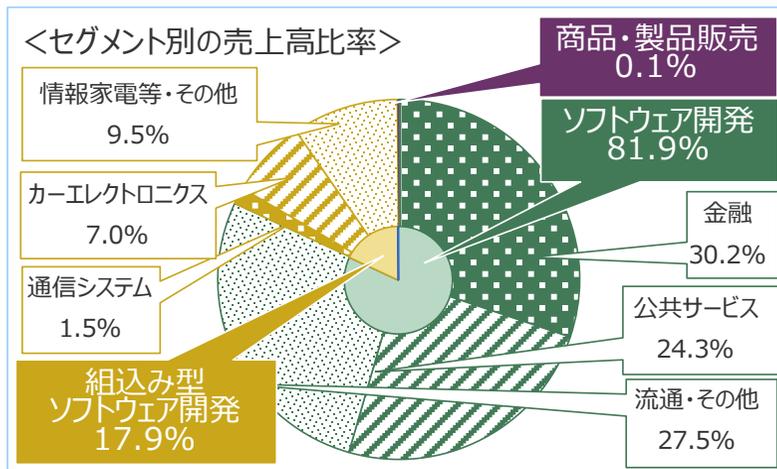
【※8】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

【※9】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

【※10】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合

【※11】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合

【※12】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスアプリケーション開発</li> <li>・IT基盤システム構築</li> <li>・オリジナル製品・サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融 (銀行、保険 etc.)</li> <li>・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.)</li> <li>・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)</li> </ul>
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組込型ソフトウェア開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信システム (携帯情報端末 etc.)</li> <li>・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.)</li> <li>・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)</li> </ul>
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売</li> </ul>	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【IRのお問合せ】 広報IR推進室  
Mail : [ir@cresco.co.jp](mailto:ir@cresco.co.jp)  
TEL : 03-5769-8058